

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立門司海青小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・特に言語についての知識・理解・技能を問う問題や、話すこと・聞くことの問題で、基礎的・基本的な力の定着が見られた。
	よくできた問題	漢字を正しく使う。話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる。
	努力が必要な問題	文章全体の構成をとらえて要旨を把握する。文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける。
算数	全体的な傾向や特徴など	・特に「測定」「データの活用」の領域での基礎的・基本的な力の定着が見られた。また、思考・判断・表現力を問う問題の正答率が高い。
	よくできた問題	グラフから項目間の関係を読み取る。異分母の分数の加法を正しく計算する。
	努力が必要な問題	図形の面積の求め方を説明する。単位分数のいくつかや、元の量の何倍になっているかを考えて説明する。
理科	全体的な傾向や特徴など	・「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域での基礎的・基本的な力の定着が見られた。また、思考・判断・表現力を問う問題の正答率が高い。
	よくできた問題	水のしみこみ方の違いや、発育条件などを調べるための実験方法を考え、表現する。
	努力が必要な問題	電気回路の作り方、電池のつなぎ方に関する事など、「エネルギー」に関する領域に課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>・「学校の楽しさ」に関する項目では、94.2%の児童が肯定的な回答をしている。友人関係に満足をしている児童は100%であり、学級での良好な人間関係が学力定着の基盤になっていると考えられる。</p> <p>・「ICTの活用」に関する項目では、97.1%の児童が授業中にタブレットを有効に活用していると回答している。また、「学校での学び」の項目でも、お互いに協力して課題に取り組む項目や、友達と話し合いながら考えを深める項目の肯定的回答率が90%を超えており、全校でICTを文房具のように日常的に活用し、学びを深めていく取組を行っている成果であると考えられる。</p> <p>・「家庭での学習習慣」の項目では、「1時間よりも多く学習している」と答えた児童の割合が他の項目と比べて低い。平日、休日ともに家庭学習する習慣がやや身に付いていない傾向があるため、自分で計画を立て「基礎・基本の力」や「探究する力」を身に付ける学びを家庭学習でも取り入れていく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・図表から情報を的確に捉える力は身に付いている反面、それを活用する力に課題があることが分かった。今後は、自分が調べる資料や図表から、目的に応じて必要な情報を選んでまとめる力や、相手に応じて説明の仕方を工夫する力を身に付ける活動に重点を置いて取り組み、児童が深い学びに向かうことができるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・マイブランチタイムと家庭学習ウィークを関連付けて行い、家庭学習でも1週間の計画を立てて、基礎・基本の力と探究する力を自己調整しながら身に付けられるようにする。また、取り組みを保護者にお知らせしたり、「家庭学習パワーアップカード」を継続的に活用して学習させたりすることで、家庭学習の質を高めていく。